令和７年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２５０１５

プロジェクト名　風月茶室プロジェクト

プロジェクトの概要

本プロジェクトでは「日本の風景を持ち運ぶ茶室」をテーマに、約 4 畳半の小型茶室を製作し、文化祭で実寸大展示とお茶会を開催した。にじり口や畳の間などの伝統的要素を再現しつつ、軽量で持続可能な素材を用いて移動可能な文化交流の場を実現した。SDGs にも配慮し、地域と学生が交流できる機会を創出した。

プロジェクトの結果・成果

今回のプロジェクトの背景には、昨年度の茶器制作の経験がある。子どもたちとの制作を通して日本文化に触れる楽しさを実感し、その発展として今年は茶室そのものを実寸でつくることに挑戦した。

茶室は文化交流の拠点として魅力があり、約４畳半という扱いやすいスケールであることも、建築学生が自ら製作する動機となった。コンセプトは木漏れ日や木陰の光の情景で、初期スタディでは不整形のフレームを 30 段積む案を検討したが、施工性を踏まえ、最終的に下段 2640mm 角から上段 2000mm 角へと正方形フレームを 28 段積む構成とした。制作はＬ字金具やダボ、ホゾ、木の棒のはめ込みなどを行い強度と分解性を両立した。

展示当日は幅広い来場者が訪れ、特に子ども連れの家族が多く、大きな木フレームに対し「入ってみたい」「登ってみたい」といった好奇心を示した。「燈」をテーマに照明を落とした空間は落ち着いた雰囲気をつくり、形状や設営も計画通りに実現した。来場者の反応も良く、もしカフェを併設できればさらに交流が広がった可能性も感じた。
また、正方形を積層する構成は他の用途にも応用できる手応えがあった。

成果として、茶室は文化祭の交流拠点として機能し、地域の方々や実行委員との会話も生まれた。解体後は木材の半数以上を再利用し、学生同士で分け合えた点も持続可能性の観点から大きい。制作過程で得た達成感は非常に大きく、この経験を得られたこと、この経験の機会を与えてくれた大学をはじめ、本プロジェクトに関わってくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。

活動写真




